高齢者の幸福度とライフサイクルにおける資産形成

ニッセイ基礎研究所 金融研究部門 北村 智紀*
ニッセイ基礎研究所 保険研究部門 中嶋 邦夫†

高齢者を対象として、ライフサイクルにおける資産形成と人生への満足度・幸福度との関連について、独自のデータを利用して実証した。データは都内にあるシルバー人材センターでアンケートを実施して取得した。

その結果、高齢者の人生における満足度（同様に、幸福度）は、退職後の生活費支出の水準と正の相関があり、生活費支出は、現在の年金受給額や退職時点における金融資産保有額が高まるほど、高まる傾向があった。このことは、現役時代における退職に向けた金融資産への蓄積が十分であるか否かが、退職後の人生における満足度・幸福度に影響があることを示唆している。一方、株式投資（株式投信を含む）の経験があると、退職後の生活費支出を低下させる傾向があり、満足度・幸福度を低めている可能性がある。これは、近年の株価低迷を反映しているものと思われる。この他に、孤独感が高まるほど人生における満足度・幸福度は低まる傾向があった。

同様に、高齢者の人生における満足度・幸福度は、現在の主観的な経済的余裕と正の相関があり、経済的余裕は、50歳時点の年金受給額の予測額と実際の年金受給額との差額、退職時点での金融資産保有額、退職してから現在までの金融資産の増減額に関連性があった。予測したより年金がもらえないほど、退職時点での金融資産が少ないほど、退職後の金融資産の減少額が大きいほど、経済的余裕が低く、人生における満足度・幸福度を低める傾向がある。

現役時代における退職に向けた十分な資産形成と予想年金受給額の適切な提示が、人生における満足度・幸福度を高める可能性があり、資産形成を促進する制度の充実や、精度の高い年金通知が望まれる。

* kitamura@nli-research.co.jp

† nakasima@nli-research.co.jp